

第Ⅱ期カンボジア・チョンカル群の運動会へ向けて

—学生の主体的活動を原動力に—

	代表者	入江航生（教育B 4年）	
構成員	山村優（教育B 4年）	内山将太（教育B 4年）	市川智己（教育B 4年）
	小西隼平（教育M 1年）	恵藤美里（教育B 4年）	
	佐藤幸司（教育B 3年）	千々松哲大（教育B 3年）	
	河村直彦（教育B 3年）	三好一平（教育B 2年）	
	丸山航平（教育B 2年）	河村朋彦（教育B 2年）	
	高橋涼（教育B 2年）	黒田小真絵（農学B 3年）	
	原田勝（教育B 1年）	小宮山晋吾（教育B 1年）	
	田中真矢（教育B 3年）	三井咲穂（教育B 3年）	
	上田文音（教育B 3年）	加藤紘平（教育B 3年）	
	田宮陽平（教育B 2年）	原野結衣（教育B 3年）	
	中村俊裕（教育B 4年）	柳井崇宏（教育B 4年）	
	河相直幸（教育B 2年）	三上駿（教育B 2年）	
	橋本慎司（教育B 2年）		

1. プロジェクトの目的

本プロジェクトは、カンボジア・チョンカル群に於いて日本式の運動会を開催することでカンボジアの体育教育における体育授業の普及の先駆けになることを目的としている。また、日本の運動会のように保護者、地域の人々が観に来たり、出店が出たりといったような今だ「学校」というものが地域から疎外されているカンボジアの現状から「地域と学校のリンク」を狙った運動会の開催も一つの目標である。また前年度の1月に第Ⅰ期運動会を同群で開催している。そこで本プロジェクト「第Ⅱ期運動会」を学生自らによって立ち上げボランティア活動として活動を開始した。

2. プロジェクトの内容

今年度のプロジェクトの内容は、主に学生による学習会の開催、他大学、高等学校へ赴いて講義・寄付活動の実施、実際にカンボジアへ渡航しての視察調査である。以下にこれまで行った活動のスケジュールを示す。

<これまでの活動スケジュール>

2013年

- 4月～ プロジェクト発足会
- 4月 「前回経験者による本活動の紹介」学習会の開催
- 5月 「運動会とは？」学習会の開催
- 6月 「カンボジア渡航について」学習会の開催、
- 7月 「カンボジア運動会の紹介、国際教育協力とは？」日本体育大学へ赴き代表者による講義
- 7月 山口県内の高等学校へ赴き「山口大学の紹介・本プロジェクト活動の紹介」
- 8月 「カンボジア視察調査」JICA 訪問、Hearts of Gold 訪問、運動会開催予定校訪問・打ち合わせ
- 9月 「カンボジア視察調査報告」学習会の開催、
- 9月 山口県内の小学校におけるボランティア活動の展開

3. 活動内容

(1) 学習会

「第Ⅰ期運動会」の反省と活動の紹介から始まり運動会の教育的価値、カンボジア渡航に向けての予備知識、運動会開催にあたっての「運動会のスケジュール」「渡航のスケジュール」等に関し話し合い、学習する会を開催

した。特に視察調査報告後からの学習会は11月下旬に開催する予定の運動会について具体的な活動が始まり、日本式の運動会を実施することで工夫された運動会スケジュールを考案中である。一つの例を示すと、学齢期に毎年運動会を経験してきた私たちにとって当たり前定番種目も、カンボジアの子どもたちにとってはイメージもわからないものである。そこで私たちにとって聞きなれた種目名も、クメール語に翻訳することを考慮して次のように名称を工夫する必要があった。

二人三脚 → 二人で3本の脚競走
デカパン競走 → 大きいパンツ競走
カゴ引き競走 → ボール運び競走

(2) カンボジア視察調査

8月28日～9月5日までの1週間、実際にカンボジアへ渡航し視察調査を行った。調査内容は主に予め、開催を予定していた「チョンカル小学校」「チョンカル中学校・高校」での運動会開催について、実際に校長先生と会って、正式な許可を得ること、そして、今回新たに運動会を開催する予定の「チョンカル中学校・高校」の運動場や校舎、校庭の正確な図面を測量し図面化することであった。他にも運動会で使用する用具を製作する際の物品調達の可・不可の確認、そして我々より以前にカンボジアにおける教育協力を展開している JICA、Hearts of Gold の事務所へ訪問しカンボジアの現状や、国際教育協力の現状の聞き取り調査を行った。そして何らかの形で我々とジョイントすることができればより一層、「支援の輪」を広めることができる、というふうにも考えている。具体的な調査結果としては以下の通りである。

<視察調査結果>

- ・「チョンカル小学校」「チョンカル中学校・高校」の運動会開催の正式な許可
- ・物品調達可能であることの確認
- ・「チョンカル中学校・高校」の正確な図面の取得



チョンカル小学校の校庭の様子

4. 今後の課題

運動会開催校も決定し、いよいよ今後さらに具体的に計画を練っていく。現段階での課題は大きく3つ考えられる。「現地の人々への効果」については、具体的にアの子供達に体育の面白さ、集団で競い合い協力し合うことの喜びと達成感を届けること、また現地の教員の方々には、現地に見合った内容と方法で運動会を企画・運営するノウハウを体験してもらうことであり、特に我々は「現地に見合った」という点に重点を置いて運動会の営を考えなければならないと考えている。「学生スタッフ及び本学生への効果」については、カンボジアという開発途上国への教育支援を通じて我々が成長することと、山口大学生に国際協力のスピリットを広げていくことである。そのためにも今後一層、学内での情宣活動・寄付活動に力を入れるほか、実施後に学内で「プロジェクト報告集会」の開催を考えている。さらに「県内地域への貢献」については、前回の渡航の際にも多くの寄付・寄贈をいただいたが、今回運動会開催校を増やすことによって必要な寄付物品数も増えている。このことからテレビ、ラジオ、ホームページで寄付・寄贈を呼びかけ、人々の温かい支援をカンボジアの子ども達に届けることが国際協力の架け橋になることと考えている。